

嚮陽会館の整備・活用に向けて

かわら版

～ ワークショップ(意見交換会)のまとめ ～

嚮陽会館の整備・活用に向けたワークショップを開催しました

令和5年12月15日、16日の2日間にわたり、嚮陽会館の整備・活用に向けてのワークショップを開催しました。参加人数は、15日が34人、16日が18人で、嚮陽会館を利用されている方、子育てをされている方、市民活動をされている方、高校生・大学生など、幅広い年代の方が参加されました。

ワークショップでは、全体説明として嚮陽会館の改修・整備のための基本計画策定の目的や、ワークショップの進め方を説明し、その後、班別に分かれて議論を行いました。

班別ワークショップは、15日は5班、16日は3班に分かれ、「①嚮陽会館の利用促進に向けて改善すべきこと」「②屋内型の子どもの遊び場に必要なこと」「③市民活動の拠点として必要なこと」の3つのテーマに沿って意見交換を行いました。

また、嚮陽会館全体や、西山公園、道の駅等、周辺との連携も視野に入れた複合的な使い方について、アイデアを出していただき、各班で議論の結果を発表していただきました。

ワークショップのスケジュール

- 1.開会のあいさつ
- 2.全体説明
- 3.班別ワークショップ
- 4.閉会のあいさつ

◆ ワークショップの目的 ◆

嚮陽会館の整備・活用に向けて、利用しやすい、利用しやすくなる施設としていくために、必要なことは何かについて意見交換を行い、頂いた意見・要望やアイデアを整備計画に活用・反映させていきます。

◆ 『嚮陽会館複合交流施設整備基本計画』策定の方針について ◆

嚮陽会館について、屋内型こどもの遊び場、市民活動交流センター機能を加えた複合交流施設としての改修に向けて、基本計画の策定を進めています。

既存の市民等意向把握調査結果や、新たな意向把握調査結果（ワークショップ、関連利用団体ヒアリング、一般市民WEBアンケート、パブリックコメント等）を踏まえ、計画案を検討していきます。

15日



16日

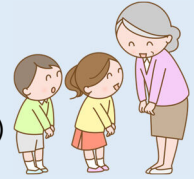


整備・活用に向けての意見概要

ワークショップで出された意見の概要は以下のとおりです。様々な立場の方から多様な意見が出されましたので、その内容を十分に吟味し、具体的な導入機能、規模、施設レイアウト等の検討を進めていきます。

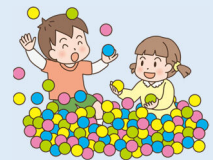
① 嚮陽会館の利用促進に向けて改善すべきこと

- 部屋の大きさを変えられるフレキシブルな空間に
- 利用者（一般市民、市民活動団体）が相互に交流できるように、他の人の活動が見えるように
- 施設が古くて使いにくい（館内放送・空調・Wi-Fiの改善、イス・机が重い、トイレにおむつ交換台がない、等）、バリアフリー化も必要
- 調理場や持ってきたものを食べられる飲食スペースがあるとよい
- NPOセンターがなくなるのであれば、学生の自習スペースがあるとよい
- 中庭（竹林）を有効に活用したい、今のままではもったいない
- 駐車場を使いやすく（利用料金の検討、駐車台数拡大、車と歩行者の動線の検討、等）
- 利用時の申請方法の改善（WEBでの申請、利用時間の細分化、等）



② 屋内型の子どもの遊び場に必要なこと

- 障害のある子、園に行けない子も含めて、誰もが一緒に遊ぶことができるように
- 乳幼児のスペースをつくる（0～1歳のハイハイできる場所）
- 子育ての相談等、親同志の交流ができるように（子育て支援機能）
- 工作、実験等の体験を通じて、鯖江らしさを知ってもらえるように（親も含めて）
- 体を動かせるスペースがあるとよい



③ 市民活動の拠点として必要なこと

- 会議のできる共有スペースや機材の設置（パソコン、プリンター、倉庫、郵便受け、等）
- 市民活動を行う時の相談窓口（サポーターの常駐、利用者の年齢に合わせた受付方法、等）
- 各団体が交流できる場（活動内容、活動場所、活動日等の情報交換）
- 市民活動の情報発信をする機能



④ 複合的な使い方

- 行きやすい、明るいイメージにする（名前が読めない、愛称を付ける）
- 総合的なコンシェルジュがあるとよい
- 施設の利用状況、駐車場の混雑状況がWEBでわかるようにする
- 西山公園・道の駅・ワイプラザとの連携（イベント、情報発信）
- まなべの館等、周辺までを含めたゾーニングの設定
- 避難所機能の強化



◇お問い合わせ◇

鯖江市役所 政策経営部 総合政策課
〒916-8666 福井県鯖江市西山町13番1号
TEL: 0778-53-2263 E-mail: SC-
SogoSeisaku@city.sabae.lg.jp